

ホーム名:グループホーム(ぼっぽ大手町) 令和5年度(令和6年2月)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員に目の振れやすい場所に掲示し、朝礼時には、全員で唱和し、意味の理解を図り、職員全体で理念の実践につなげている。	法人の理念を中心として、その精神を箇条的に纏めてられたのがふれあいぼっぽ5ヶ条である。文言は入り口正面に掲載され、人との繋がり、明朗な対応、質の高いケア等が謳われていて、毎朝の唱歌とともに研鑽に励まれている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	施設が自治会に加入し、回覧板での地域行事は確認しているが、長期のコロナ過により、地域での散歩、買い物は延期している。コロナ感染症の5類への移行により、コロナ感染の流行状況を見ながら、利用者が地域への外出かできる時期を考えている。	やや鎮静化の向きもあるがまだ、コロナ渦の最中にあり、地域としても事業所としても感染防止対策は実施されている。自治会からの情報把握は把握されている。本格的な交流はまだ、難しいようであるが思考は始まろうとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地域住民の方に、認知症の方への対応や、ケアの方法など、施設での介護内容を説明し、認知症を理解して頂く機会を設けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に1度の運営推進会議で、地域包括、地域の方、利用者の家族を交えて、施設の状況を報告し、質問を頂き、説明し、情報交換を行っている。	事業所の運営の基盤となる運営推進会議でもあり2か月毎には開催されている。地域包括の方をはじめ、事業所管理関係者、利用者家族も出席され、内部報告、質疑応答がなされ、今後の運営上の問題などが話し合われサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の窓口相談に助言を頂いている。介護支援相談員の方にも月に1度は来訪して頂き、施設の状況や取組みを伝え、相談もさせて頂いて、連携を図っている。	事業運営について積極的に相談に出向いて行かれたり、市から派遣されている介護支援相談員とも助言を貰ったりしている。事業所は以前から市との連携を継続的に大切にされている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する勉強会を実施し、職員一人一人が理解し、業務に取り組んでいる。	重要事項説明書や運営規定にも身体禁止の規定を記載している。身体拘束排除マニュアルも策定されている。規程遵守については家族も同意されている。事業所内では定期的に身体拘束に関する勉強会を実施され、職員一人ひとりが理解されるように取り組まれている。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する勉強会を実施し職員一人一人が理解し、業務に取り組んでいる。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>定期的な研修、ミーティングを行い、学ぶ機会を持ち、職員全体で理解し、共有し、活用できるようにしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所希望時より入居者様状況を聞き、合わせて、見学をして頂き、介護支援専門員と共に家族様との話し合いを充分に行い、重要事項説明書の内容について納得・ご理解頂いた上で契約をしている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族様には、利用者の状況を定期的に連絡又は、面会時にお話しし、ご意見や要望を聞いている。</p>	<p>家族の来訪時には懇談され意見や要望など詳しく聞かれている。事業所の方からも利用者の生活状況を連絡されている。意見や要望は出来る限り反映できるように取り組まれている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>管理者。リーダー職員、職員とのコミュニケーションを常に行い職員からの意見や提案を聞き入れ、反映できるようにしている。送りノートを活用し、職員全体で周知し、情報共有している。</p>	<p>定期的なミーティング時も含め大手町会議やサービス向上勉強会、などで意見の提出をされている。普段から話しやすい職場環境にある事は職員のの面談で確認されている。管理者は運営に反映できるように努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者からの声かけに心掛け、常にコミュニケーションを取り、職員の思いを話せる環境にしている。又、社内での評価制度を設け、面談し、各自が向上心を持って働けるようにしている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社外研修、社内研修の研修の場を毎月設け、個々の職員がスキルアップできるようにしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の施設会、地域主催の研究会に積極的に参加し、意見交換の場になって入る。</p>		

## Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時より、挨拶、自己紹介、コミュニケーション、傾聴を行いながら、ご本人の情報と実際にお会いしての必要な介助を確認し、同時に、ご本人の要望を取り入れ介助を行う事で、ご本人との信頼関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に家族様から要望やご本人の情報を聞き、施設で安心して生活して頂けるように努めている。又入所時より家族様のご様子は定期的にお話し、コミュニケーションを行いながら、信頼関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、家族様とのコミュニケーションを図り、必要としている支援を把握し、職員に周知し、統一した介助を行えるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は家庭的な雰囲気の中で残存機能を維持できる生活支援を行い、共に過ごし、生活する関係を築いている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナ、インフルエンザの流行の為、面会時間の制限はるが、居室での面会時や電話、ケアプラン修正時に暮らしや、気付きの情報等の近況報告を定期的に行い、家族様と一緒に考え支えていく関係づくりに努めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>コロナ、インフルエンザの流行の為、外出は行えず、面会時間の制限はるが、居室での面会や手紙、電話を活用し家族様、知人の方との関係継続の支援に努めている。</p>	<p>前年度はコロナ渦の影響が強くその為、家族との面談は間接的にならざるを得ない状態であった。現在も影響下にあるがやや沈静化しているため家族との面会は可能となっている。知人との文通や電話会話などの関係継続も努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常生活はリビングで過ごして頂き、常に利用者同士が関わり合い、支え合える環境づくりに努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要に応じて、家族様と連絡を取り、ご様子をお聞きし、相談や支援に努めている。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の初期の意向・要望を把握をしているが、日々のコミュニケーション、行動、言語、表現を観察し、その日、その時の思いや、希望を把握するように努めている。	日常生活の中での行動や言動や表情をしっかりと観察する事を大切にされている。気が付があれば介護日誌に記録し、ミーティング時にも話されたりして共有化し支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所時に、これまでの暮らし、環境について情報を得るが、その後も家族様と連絡を密にして、詳しく生活歴を確認し、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご本人のその日の様子を観察し又、コミュニケーションを取りながら希望・意向に沿った過ごし方をして頂きながら、日々の関わり把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティング、申し送り、会議で情報を周知し、ケアの方法を会議支援専門員、看護師とともに検討し家族様にも話し、現状にあったケア介護計画を作成している。	ケアマネが中心になって日頃の申し送り書や介護記録を基本に、本人と家族の要望、意見を聞かれ、介護する関係職員の意見、支援専門員、看護師とも検討されて介護計画書が作成されている。期間は3ヶ月であるが利用者の状況によっては見直しは常に可能である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に日々の様子、ご本人の言葉、行動、他の方の関わりの様子を記録し、職員間で情報を共有しながら実践に反映、介護計画の見直しに活かしている。	も	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・身体状況、精神状況の変化に合わせて柔軟にケアを実践している。定期的に、事業所にて往診時間を持ち、ご本人に合わせた医師の指示を受け、看護師による処置を行い、日々の健康管理に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源を活用しながら、生活して頂くように努めている(コロナ感染流行の為、外出は控えているが、状況を確認しながら外出を検討していく)		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に2週間に1度、かかりつけ医に往診に来てもらっている。また、常時、電話相談ができ、結果、は、看護師、職員と共有、適切な医療をうけられるように支援している。	協力医と共に、従来からのかかりつけ医を希望されている方には、その希望を聞かれてその医院の診察も認められている。事業所としても、その医院との密接な連携を行いながら、利用者の情報の共有を図るように努めている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>施設内に看護師を配置し、日々の健康管理に努めている。体調変化等には看護師に相談し、協力機関と連絡をとり連携を図り、適切な受診、看護を受けられるように支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>・入院時には、診療情報や看護・介護サマリーの提供を行い、入院先の地域医療連携室の医療ソーシャルワーカーと連携を行う。又、病状経過、退院予定、退院後の対応の情報を交換を行い、病院関係者との関係づくりに努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化による指針を作成し、同意を頂いている。終末期には、家族様と十分に話し合いの上で、家族様、医師、施設と話し合い、対応方針を統一し、ケア、サービスをチームで支援できるように努めている。</p>	<p>入所時に全般的な説明はされているが、重度化に向かい始めようとされた頃から、重度化による指針に基づき、事業所と家族と主治医との間で、延命治療入院か、看取り介助支援かの話し合いがなされる。事業所では可能な限りの支援をされ、家族の意向は十分に汲み取られるよう配慮されている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時のに備えて、職員には対応、連絡の手順を周知し、管理者、看護師、職員、誰もが速やかに協力医療機関への連絡が出来るように備えている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署と連携して、年2回の消防訓練を行い、又、地域の消防団の方に訓練の参加の声をかけを行い、非常時の協力体制の確保に努めている。</p>	<p>本年度も年2回の避難訓練が実施され、職員も緊急時の模擬体験をされている。当該事業所には地元の消防団があり、協力してもらおう為の声掛けされており、利用者の安全確保に務められている。</p>	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ご利用者様の個々の情報を把握し、これまで生きてこられた歴史、人格、お気持ちを尊重し、接遇に気を付けるように努めている。</p>	<p>尊厳の確保やプライバシー確保のマニュアルは整備されており、定期的に研修も行われている。職員の利用者に対する言葉使いは適切なものである事はしっかりと確認されている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中で、ご利用者様に対して固定概念でとらえず、コミュニケーション、傾聴を行い、自己決定ができるような場面を提供できるようにこ、心掛けている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・ご利用者様の意志を尊重し、その方のペース・希望に合わせた支援を行い、その人らしい生活が出来る様努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>定期的に美容師に来てもらい、ご本人の好むヘアースタイルや洋服も選んで頂き、身だしなみ、おしゃれを楽しんで頂けるように支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様にあった食事形態になるように、看護師と職員が相談し連携しながら、介助提供をしている。家族様には形態が変更の際には報告し共有している。また、お誕生日には手作りのケーキと一緒に作り提供している。職員と一緒に片付けも進んでして下さいます。</p>	<p>各利用者の食事形態をしっかりと把握され最も適切な食事を出されている。また、家族にも報告されるなどして適切な対応をされている。利用者も食べやすい食事を楽しんでいた。お誕生日のイベントは利用者の楽しみになっている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量を記録し、水分など途中で確認し、随時、その方の好む飲み物を考え提供し、必要量提供できるように努めている。食事量が少ない場合は、看護師、協力医に相談しながら全員で支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に歯磨きをし、ご自分で出来ない方や最後の仕上げは職員が行い、入れ歯の方は外して洗浄し、夜は除菌液につけている。又、一年に一度、歯科検診を行い口腔内の清潔保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者様の排泄の記録し、定期的な排泄があるか、長時間排泄がない場合は、看護師に伝え対応している。その方に合わせた促しや訴えがない方もトイレの声掛けを行い、トイレでの排泄が出来るように支援している。</p>	<p>排泄に関する記録は一覧表にされて分かりやすいし共有化も図られている。自立支援に向けての記録の利用の仕方についても看護師に相談されたりして適切なものといえる。現在は自立支援に向けて努力中である。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日の排便の記録し、毎朝、牛乳、ヨーグルトを提供し、1日の水分を1,500cc飲んで頂けるように、好みの飲料を合わせて提供している。便秘ぎみの方はおやつの際にも牛乳提供や運動を取り入れ、便秘予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ゆっくりと入浴できるように週2回、職員が見守り、介助を行いながら、週2回の個浴を行っている。入浴拒否の場合は無理をせず、時間をずらしたり、他の方に変更を行い、個々に応じて入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回は午前中に30分位を掛けて入浴されている。入浴中は職員と会話を交わしてリラックス感を楽しめるようにされている。リフト浴も完備されており利用者にとっても無理のない入浴支援をされている。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その方に応じて、随時、お昼寝や休憩時間を取り、夜間、就寝できない方には、安心できる言葉がけや傾聴し、安心して就寝できるように努めている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬の内容は、往診後、看護師を中心に職員も把握し、変更や注意すべき内容の周知を行い、服薬後体調の変化の確認にも努めている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>それぞれの生活歴、日々の関わりを通して、得意な役割や楽しみを把握し、その人らしく過ごせる役割が持てる場作りをしている。お手伝いして頂いた後には、感謝を伝えるようにしている。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>感染症の流行の為、以前の様な外出は、現在も控えているが、流行状況が落ち着けば、散歩に出かけられるように支援を行いたい。</p>	<p>利用者の完全感染防止対策が何よりも優先されなければならない事から、今は外出支援は大幅に制限されている。当面は感染の沈静化を待たれている状態である。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>施設内では、お金を使う事はなく、又感染症の流行の為、外出を控えている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人の要望に応じて、職員が電話をかけ、ご本人に話してもらっている。手紙が届いた場合は、ご本にお渡しし、返信があれば支援を行う。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設全体をバリアフリーにしている。居室、居間兼食堂は採光がとでもよく温かく過ごして頂いています。又、家庭的な雰囲気、季節感を感じられるように、季節に応じた切り絵を個々に作成し、壁に展示している。</p>	<p>リビング、居室、廊下、トイレ、風呂場は利用しやすい位置関係にあり家庭的な雰囲気にある。空調設備のお陰で凌ぎやすく、また、壁に掲載された季節ものの作品は見た目にも親しみを感じる。バリアフリーは利用者にとって有り難い仕様といえよう。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂では、一人ひとりの状態を把握しながら、ゆったり、ご自由にコミュニケーションが出来る席の配置を行い、その時、その時に合わせて席の移動を行ないながら、利用者同士のつながりが築けるように工夫している。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、家族様と相談し、協力して頂き、ご自宅で、使い慣れた物を持って来て頂き、ご本人が居心地よく生活して頂けるよう工夫づくりに努めている。</p>	<p>在宅中に使い馴れしていた馴染みの家具や置物は自分の家を感じさせるものであり、心から安らげるように工夫されている。居室の掃除も行き届いて、気持ちよく生活できるようにされている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各利用者様の残存機能や能力に応じて、トイレや食堂に近い居室にする等、配慮をおこない、又、利用者様がご自分で出来る事は、声かけ・見守りを行い、自立した生活が送れるように支援している</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	④	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	①	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)	④	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている (参考項目:11,12)	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない